

日 時 平成26年10月11日(土) 9:00～9:45

場 所 附属中1年1組教室

指導者 荒川 尚

## 本授業の主張点

『世界一美しいぼくの村』と『一つの花』は、場面や人物設定等において共通点が多い。これら二つの作品を教材として用いることで「比べる」という視点が生まれ、児童が自然に「読みの観点」を使いながら、二人の中心人物を比べたり、物語の展開に目を向けたりする、そのような授業をお見せします。

## 1 単元名 「読書発表会」をひらこう

『世界一美しいぼくの村』(東京書籍4年下)

## 2 単元の目標

- ◎ 「読みの観点」(中心人物, 対人物, 物語のしくみ, 比べる)などを使って、場面の移り変わりや人物の気持ちの変化を読み取ることができる。
- 習得した「読みの観点」を使って、読んだ本の「紹介カード」を作ることができる。

## 3 評価規準【学力デザイン レベル2より】

- 家族や故郷を思う心を描いた本を読んで、「紹介カード」を書こうとしている。【関】
- ◎ 「読みの観点」を使って、場面の移り変わりや人物の気持ちの変化を読み取っている。【読】

## 4 単元とその指導 (□…「読みの観点」)

## (1) 児童観

本学級の児童は、以下の学習を通して「読みの観点」を習得している。

『走れ』では、時を表す言葉に着目して場面が分けられること、「山場」の前後で中心人物の気持ちが大きく変わること、中心人物の心情の変化に関わる対人物がいること、などを読み取る学習を行っている。また、『一つの花』と比べて読む学習を通して、二つの物語の場面の違い、登場人物の関係性の違い、中心人物の変容の違いを捉える学習を行った。さらに、『ごんぎつね』では、「ショーウィンドウで紹介する」学習を通して、「あらすじ・しくみ・テーマ」の視点から作品の価値に迫らせた。このような学習を通して習得した主な「読みの観点」を以下に示す。

- a : 物語には場面があり、紙芝居のように何枚かの絵で表せること
- b : 「時・場・人物」を基に場面が分けられること
- c : 物語は「設定・展開・山場・結末」の四つで構成されていること
- d : 「時・場・人物」の紹介は「設定」に多いこと
- e : 物語には大きな変化をもたらす「事件」が必ず起きること
- f : 起きた事件を「～した○○」とすると小さな題名になること
- g : 小さな題名だけを読むと、あらすじがわかること
- h : 物語の山場に、中心人物の気持ちや考えがで大きく変わる「クライマックス」場面があること
- i : 物語には、中心人物の心情の変化に関わる「対人物」がいること
- j : 物語の「設定」と「結末」を比べると、人物の成長や変化が分かること
- k : 題名はテーマにつながるキーワードであること
- l : 二つの作品を比べて読むと、作品の心(主題・テーマ)が分かること

児童は、これらの「読みの観点」を使いながら、物語のしくみや中心人物の心情の変化を捉える経験を積んできている。しかし、作品の価値や作者の思いに気付いたりすることは十分ではない。

## (2) 教材観

本単元で取り扱う教材は、作者である小林豊氏がアフガニスタンを訪問した際の経験を基に書いた三部作の中から教科書用に書き下ろした物語である。本教材は、主人公である「ヤモ」の、家族や町の人々との交流、家族や自分の村である「パグマン」に対する思いが描かれており、児童は「ヤモ」の家族愛やふるさとの思う気持ちに寄り添い、共感しながら読み進めるであろう。しかし、「ヤモ」が待ち望んでいる春が来る前に、自然に囲まれた美しい村が戦争により一瞬で破壊されてしまうことが、最後の一文に描かれている。「ヤモ」の気持ちに寄り添い、共感しながら読み進めてきた児童にとっては、衝撃を受けるとともに、「戦争」に対しての恐怖感や嫌悪感を抱くであろう。本教材では以下の点から、場面の移り変わりや人物の気持ちの変化を読み取る学習をするのに適した教材であるといえる。

- (1) 「ヤモ」と家族、「ヤモ」と町の人々との交流、ふるさとの村「パグマン」を思う気持ちがやさしく描かれており、ほほえましさを感じたり、「ヤモ」の気持ちに共感したりしながら読み取ることができる。

(2) 設定・展開・山場・結末という物語の典型的な構成に慣れた児童にとって、最後の一文は衝撃的である。しかし、この一文について思いを巡らし、交流することで、感じ方の違いや作者の思いを感じることができる。

以上のことから、本教材は「読みの観点」(中心人物、対人物、物語のしくみ、比べるなど)を使って、場面の移り変わりや人物の気持ちの変化を捉えさせることが可能であると言える。また、同一作者の作品を用いた読書発表会をすることで、幅広い読書にとどまらず、目的意識を持った読書活動への広がり期待できるとともに、ものの見方や考え方の広がりへとつながっていく(学力デザインレベル3)。

## (3) 指導観

指導にあたっては、「読書発表会」に向けての「紹介カード」を作る活動を通して、「読みの観点」を基に自力で作品に向かい読み進める力を身に付けさせたい。そのために、「読みの観点」を「1知って、2使って、3使えるようにして、4共に使う」四つのステップに分けて段階的な指導を行う。単元の導入において、教師作成の「紹介カード」を用いて「読書発表会」のモデルを示し、児童に学習の目的意識を持たせる。そして以下の「読みの観点」を使って「紹介カード」作りに取り組ませる。

- ①「設定」場面で、「時・場・人物」を確かめる。 ②「設定・展開・山場・結末」の四つに分ける。

③ 場面に名前を付け、あらすじをつかむ。 ④「人物マップ」を作り、登場人物同士の関係を捉える。

⑤ 作品に表れている「心」を紹介する。

第一次では、まず既習教材の『一つの花』を使ってモデルを示し、学習活動に見通しを持たせる。「紹介カード」に何が書いてあるのかを考えることで、本教材を読んでいく際の「読みの観点」を確かめさせる。

第二次では、まず「時・場・人物」に着目しながら場面分けをし、各場面に名前を付けることで物語のあらすじを捉えさせる(1知って、2使って)。次に「人物マップ」作りをしながら、「ヤモ」と家族、「ヤモ」と町の人々、「ヤモ」とふるさと「パグマン」の関係を捉えさせていく。これまでのように見つけたことをすべて書き込んでいくのではなく、どれを残して書けばよいのかを精選させることで、「ヤモ」の家族愛、ふるさとへの思いを焦点化させたい(2使って、3使えるようにして)。本時では、同じ戦争を扱った作品である『一つの花』と比べて読み、共通点、相違点を見つけさせる。どちらも悲しい話であるが、「どちらがより悲しいお話か」と問うことで物語の結末に目を向けさせ、本教材の最後の一文について考えを深めさせる。その後、紹介する観点を確かめて「紹介カード」にまとめさせる(3使えるようにして、4共に使う)。

第三次では、同シリーズの本等を紹介したブックリストを参考に読書を進めさせ、「紹介カード」作り、「読書発表会」での交流を通して、相互の感じ方のよさや違いに目を向けさせたい。

## 5 指導計画（全 11 時間）

※ゴシックは視点に関わる部分

| 次 | 時         | 学習者                          |                                              | 指導者                                   |                                                                                                                      |
|---|-----------|------------------------------|----------------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |           | 意識                           | 学習活動                                         | 意図                                    | 指導及び支援【評価の観点】                                                                                                        |
| 一 | 1         | 読書発表会をやりたい。                  | 学習課題を知る。                                     | 学習に見通しを持たせる。                          | ・学習の見通しを持たせるために『一つの花』を使って、「人物マップ」「紹介カード」「読書発表会」のモデルを提示する。【関】                                                         |
|   | 2         | 発表会の方法が分かった。                 | 学習の見通しを持つ。                                   | 『世界一美しいぼくの村』での学習のねらいを確かめさせる。          | ・物語を通読させ、「設定」と「登場人物をとらえさせる。【読】<br>・課題を持たせるために、初発の感想を交流する場を設定する。【関】                                                   |
| 二 | 3         | 『世界一美しいぼくの村』がどんなお話かわかった。     | 物語の「場面」に名前をつけることで、「あらすじ」をつかむ。<br>1 知って 2 使って | 中心人物の動きを追い、物語の「あらすじ」をとらえさせる。          | ・「時、場を表す言葉」に着目して「場面」をとらえさせるために、挿絵を効果的に用いる。<br>・「場面の名前」を考えることで、出来事の大体をおさえさせる。【読】                                      |
|   | 4<br>5    | 「ヤモ」はとても家族思い、ふるさと思いの男の子なんだね。 | 『世界一美しいぼくの村』の「人物マップ」を作る。<br>2 使って 3 使えるようにして | 「人物マップ」を作り、「ヤモ」の家族やふるさとを思う気持ちをとらえさせる。 | ・「人物マップ」作りを通して、「ヤモ」の父の対する気持ち、兄に対する気持ちを、「場面」や叙述に戻りながら考えさせる。【読】<br>・「ヤモ」のふるさと「パグマン」に対する思いを「ヤモ」の言動を基に読み取らせる。【読】         |
|   | 6<br>【本時】 | 作者の小林豊さんが伝えたかったことは何かな。       | 『世界一美しいぼくの村』と『一つの花』を比べて読む。<br>4 共に使う         | 『一つの花』と比較することで、「結末」に着目させる。            | ・二つの物語の「共通点」「相違点」を見つけさせることで、どちらも戦争が題材であること、結末が大きく違うことに気付かせる。<br>・悲しさという観点で「比較」させ、物語の「結末」に着目させることで筆者が伝えたい思いを想像させる。【読】 |
|   | 7         | 「紹介カード」が書けたぞ。                | 『世界一美しいぼくの村』の「紹介カード」を書く。                     | 「紹介カード」に書く観点を確かめさせる。                  | ・『一つの花』の「紹介カード」のモデルを参考にさせることで、紹介する観点を確かめさせ、『世界一美しいぼくの村』の「紹介カード」作りにつなげる。【読】                                           |
| 三 | 8<br>9    | 他にふるさとを思う気持ちを描いた物語がないかな。     | 関連図書を読み、「紹介カード」を書く。                          | 「紹介カード」で紹介する項目を意識した読書に取り組ませる。         | ・事前にブックリストを作成したり、教室にコーナーを設置したりして読書環境を整えておく。<br>・『一つの花』『世界一美しいぼくの村』の「紹介カード」を振り返らせながら作成させる。【関】                         |
|   | 10<br>11  | みんなはどんな物語を読んだのかな。            | 読書発表会をする。                                    | 発表会での交流を通して、お互いの感じ方の良さや違いに目を向けさせる。    | ・「紹介カード」を使いながら、自分が読んだ本について紹介させる。<br>・発表会の中に、質問したり、自分の考えを伝えたりする時間を設定する。【関】                                            |



## 6 本時の目標（6／11 時間）

### (1) 目標

#### ○ 指導目標

- ・ 二つの作品を比較しながら、二人の中心人物の様子や展開の違いを読み取らせる。

#### ◇ 評価規準

- ・ 「悲しさ」という観点で、二つの作品の人物設定や展開の違いを読み比べることができる。【読むこと】

### (2) 展開

※ゴシックは視点に関わる部分

|                                                                 | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 教師の働きかけ（○）と形成的評価（◆）                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 見<br>通<br>す<br>／<br><br>深<br>め<br><br>る<br><br>／<br>広<br>げ<br>る | 1 前時までの学習を振り返る。<br>2 本時のめあてをつかむ。                                                                                                                                                                                                                                                      | ○ 既習教材で戦争を扱った作品である『一つの花』の「人物マップ」を提示し、これまでの学習を想起させる。                                                                                                                                                                                                                                                       |
|                                                                 | 二つの作品の作者が伝えたいことを考えよう                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                                                                 | 3 二つの作品を比較する。<br>(1) 共通点を見つける。<br>(2) 相違点を見つける。                                                                                                                                                                                                                                       | ○ 二つの作品の比較の視点を持たせるために、の人物・出てくるもの・場面の雰囲気等を比べさせ、板書で整理する。<br>○ 二枚の人物マップ、教材文への書き込みを参考にさせて、共通点と相違点を見つけさせる。<br>○ まず共通点を、次に似ているけれども違うところとは問い、相違点を見つけさせることで、比較する観点を絞らせる。                                                                                                                                          |
|                                                                 | <div>【予想される発言内容①（共通点）】</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心人物が子ども。 【人物】</li> <li>・ 戦争中のお話である。 【設定】</li> <li>・ かかわりの深い人物がいなくなる。 【対人物】</li> </ul>                                                                                                                          | <div>【予想される発言内容②（相違点）】</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心人物の思いが描かれている（世界―）、いない（一つの花） 【人物】</li> <li>・ 日本（一つの花）と外国（世界―）のお話 【物語の設定】</li> <li>・ 結末の雰囲気が楽しそう（一つの花）・悲惨（世界―） 【展開】</li> </ul>                                                                                                      |
| ／<br>広<br>げ<br>る                                                | 4 二つの作品の結末を比較する。                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○ 教師作成の『一つの花』の「紹介カード」を提示する。<br>○ 話の終わり方を比較させるために、二作品の結末だけを提示する。<br>○ 中心人物の様子や展開の違いに着目させるために、初発の感想から「どちらのお話がより悲しい結末か」と問い、考えを導き出させる。                                                                                                                                                                        |
|                                                                 | <div>【予想される発言内容③】</div> <div>「一つの花」</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゆみ子が何も知らずに成長していることが悲しさを感じさせる。</li> <li>・ 直接的ではないが、悲しさがじわじわと伝わってくる。</li> <li>・ 戦争に負けない強さを感じる。「世界―美しいぼくの村」</li> <li>・ 展開と結末場面の違いが激しい。</li> <li>・ 衝撃的な終わり方である。</li> <li>・ 戦争はひどいということが分かる。</li> </ul> | <div>◆二つの作品を読み比べることで、作者の創作意図を読み取ることができているか。（ノートへの記述、発表）</div> <div>A：人物や展開の違いを根拠にして、両方の作品の作者の思いを想像することができる。</div> <div>B：人物や展開の違いを根拠にして、より悲しいと思う方の作者の思いを想像することができる。 →なぜ一方は穏やかな、もう一方は衝撃的な結末で書いたのかを問い、作者の思いを想像させる。</div> <div>C：二つの作品の雰囲気の違いを捉えることができない。<br/>→もう一度、結末場面に着目させ、どちらが、なぜ悲しい感じがするのかを考えさせる。</div> |
|                                                                 | 5 本時の学習を振り返る。                                                                                                                                                                                                                                                                         | ○ 児童の考えが一方の作品に集中する場合は、もう一方の作品の立場で発言することで、両方の立場から児童に考えさせたい。<br>○ 『世界―美しいぼくの村』の結末がなぜこんな描かれ方をしているのか、作者の思いを想像させる。<br>○ 比べて読んだから分かった、比べて読んでよかったという内容の振り返りを取り上げ、紹介する。                                                                                                                                           |

